

ときを越え
受け継がれるもの

水沢競馬場桜並木

Ⅱ 水沢区姉体町字阿久戸 Ⅱ

毎年4月、水沢競馬場でシーズンの幕が上がる岩手競馬。その春の風物詩となっているのが、水沢競馬場メインスタンドの向こう正面に広がる桜並木だ。

昭和63年「北上川堤防のそばに広がる競馬場の中に、市の新名所を作りたい」と願う競馬場の職員たちが発案し、牧草地だった向こう正面の走路外側約800㍔の間にソメイヨシノの苗木150本を植樹。桜は順調に育ち、職員たちが思い描いた「雄大な北上川の流れと桜並木を背景に競走馬が疾走する情景」は、来場者はもとより、競馬中継を通じて全国の競馬ファンの目を楽しませるまでになった。

平成15年に散策路が整備されてからは、桜の開花と岩手競馬の開催に合わせて一般開放され、ことしも4月16日、17日に実施される予定だ。

春の息吹とともに膨らみを増す桜の蕾は、空の青と草の緑とのコントラストで、いっそう彩りを増し咲き誇る。



1



2

1散策路はまるで桜のトンネルのよう。競馬ファンだけでなく、家族連れやアマチュアカメラマンなど市内外から多くの人が訪れる（平成27年4月19日撮影）

2南東には東稲山（写真奥）、北東には種山なども見え、奥州の春の情景を味わうことができる



広告